

元祖 モリモリ書店

来月号より、「号外」みたいなものを出す予定です。
令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書日より

★キムタクの「教場」は
やっぱりおもしろいからた
てすね。

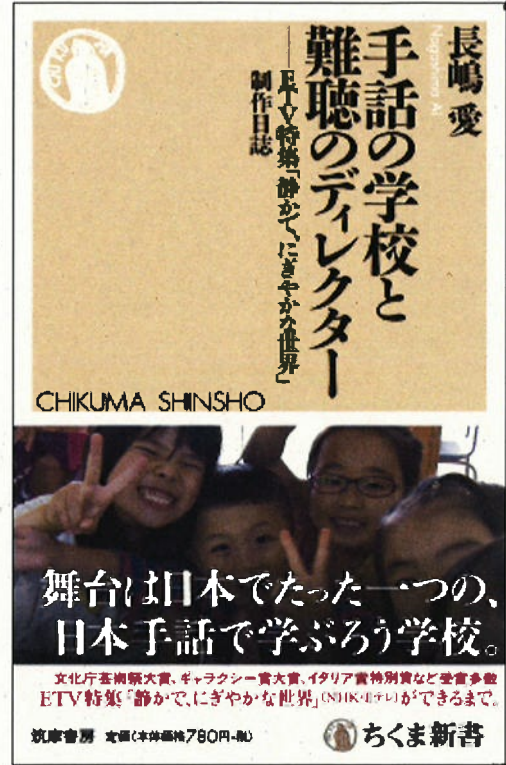
第69話 R03.01.15(金)
「静かだけど、
とてもにぎやかな世界。」

★今回、紹介する本は、『手話の学校と難聴のディレクター〜ETV特集「静かで、にぎやかな世界」制作日誌〜』（著/長嶋愛、出版/ちくま新書）です。

日本で唯一「日本手話」で学ぶ「ろう学校」である「明晴学園」（2年前に附中生とともに訪問しましたが、すてきな学校でした）。その学校の魅力と、ろう者の文化について伝えたNHKのドキュメンタリー「静かで、にぎやかな世界」（傑作!）のディレクターが語った本です。

NHKでディレクターをする著者は、難聴を患い、現在は、音声を文字にする通訳とともに働いています。自分自身のこれまでの人生における葛藤を語りながら、「明晴学園」に取材したときのことを温かなまなざしで読者に語りかけてくれます。

「共に生きるなんてきれいごと?」という問いにぶつかりながら、明晴学園の子どもとともに、「本当の共生」や「思いやり」について自分なりの答えを見いだしていく姿がすばらしい。ドキュメンタリーとともにぜひ。



手話を生かすって、ほんともおもしろい。あ、うん。



『少数派になると、
生きにくさが生じる。
ただ、それだけなのた。
どちらかが幸せ、
というわけはない。』
(P.202)

『一人ひとりの視点や
生き方に「違い」がある。』
(P.8)

番組でも印象的な
「聞」: このように。なぞ。
疑法が薬がある。た
かみまさん? のこと
質問の背景もよくわかりました。

ちがいが
あるから
あもしろい。

ここは
あまり
うんせ
ません。

「ろう者」「聴者」「日本手話」
「共に生きる」「番組づくり」など
さまざまな要素が盛りだくさん。